

FRBはフォワード・ガイダンスを変更する見込み(米国)

1. フォワード・ガイダンスの経緯は？

米連邦準備制度理事会(FRB)は2012年12月、将来の金融政策の方針を前もって告知する「フォワード・ガイダンス」を導入しました。景気支援などのため、インフレ率が2.5%を上回らない限り失業率が6.5%に低下するまでゼロ金利政策を続けるという内容です。しかし、その後失業率が順調に低下(今年1月6.6%)してきたこともあり、FRBは昨年12月に量的金融緩和策第3弾(QE3)の縮小を決定した際に、インフレ率が2%を下回る場合は失業率が6.5%を下回った後もゼロ金利政策を続けることが適切とガイダンスを変更しました。そのため市場では、更なるガイダンスの変更の有無などが注目されていました。

2. 最近の動向

1月28日～29日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録では、会合の参加者は、失業率の水準などフォワード・ガイダンスの内容を近いうちに変更することが適切との考えで合意したことが示されています。

具体的には、数人の参加者は、フォワード・ガイダンスとして引き続き数値基準を設けることを希望しました。しかし、その他の参加者は、数値基準ではなく定性的な判断基準を設けることを望むことが示されています。また何人かの参加者は、金融市場の安定へのリスクを明確に政策判断材料にすべきと提案しました。

今後のフォワード・ガイダンスには、物価などの数値項目や定性的な基準が加わる可能性があります。



3. 今後の展開

今回の議事録では、FRBが経済成長に対するリスクとして物価上昇の鈍さを警戒していることが改めて示されました。イエレンFRB議長も2月11日の下院での議会証言などで物価動向への警戒姿勢を示しており、今後の金融政策の判断材料として、物価指標の重要度が増していると思われます。その他、議事録では労働市場のスラック(需給の緩み)について議論されており、参加者の多くは賃金の伸びの鈍さがそれを表していると見ていることから、今後の賃金動向にも注目です。

2月27日には、イエレンFRB議長の上院での議会証言が予定されています。FOMC議事録の内容を踏まえ、質疑では今後のフォワード・ガイダンスの内容など具体的な質問も想定されます。市場への影響の大きさから、引き続き議長発言が注目されます。

弊社マーケットレポート

検索!!

2014年02月10日 【デイリー No.1,796】米国の雇用統計(1月)

2014年01月30日 【デイリー No.1,787】米国の金融政策(1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意(リスク、費用)】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等(外貨建資産には為替変動もあります。)の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、投資信託は預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

- ◆直接ご負担いただく費用・・・申込手数料 上限3.675%(税込)
 - ・・・換金(解約)手数料 上限1.05%(税込)
 - ・・・信託財産留保額 上限3.50%
- ◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限 年 1.995%(税込)
- ◆その他費用・・・監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用(それらにかかる消費税等相当額を含みます。)、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託(基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。)における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

[2013年11月15日現在]

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



三井住友アセットマネジメント株式会社